

# トラック輸送情報（平成17年3月分）

平成17年 7月 4日  
国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課  
担当：高橋、荒木 内線28315  
直通：03-5253-8342  
ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

## 1. 特別積合せ貨物

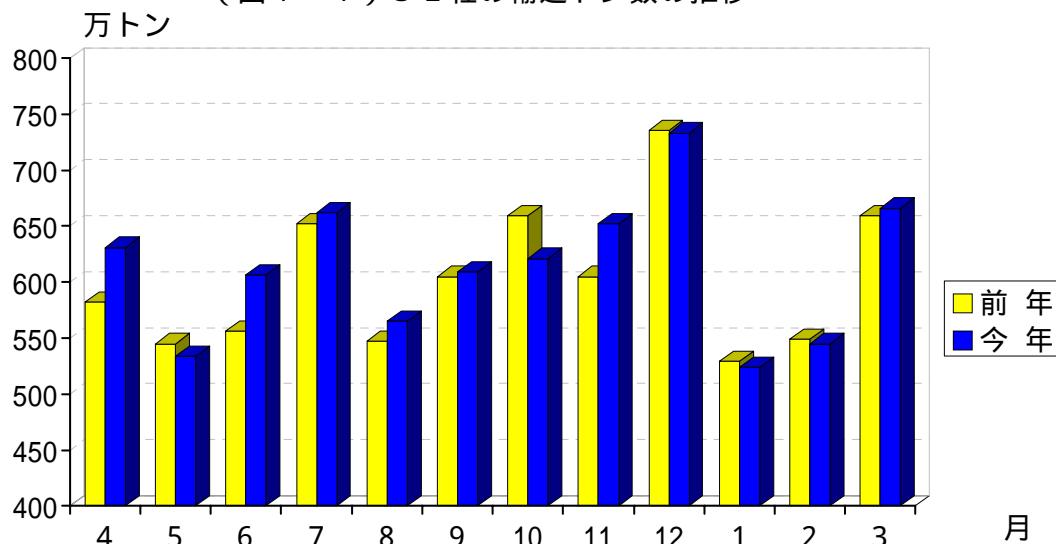
### (1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、6,664,885トンで、前月と比べ、総輸送量が約121万トン増加したため、前月比122.1%（季節調整済み102.1%）、前年同月と比べ、約8万トン増加したため、前年同月比101.2%の実績であった。

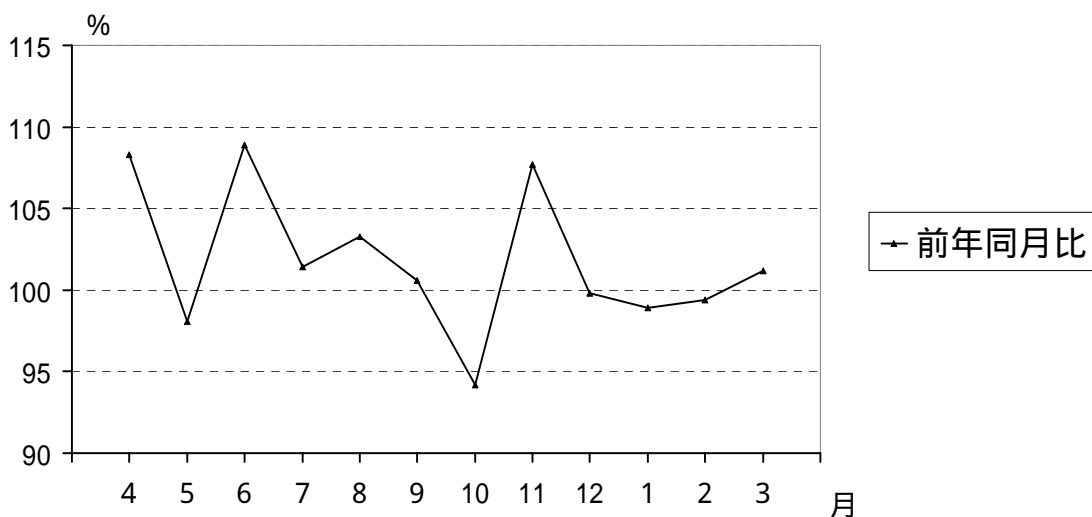
なお、平均稼働日数は、25.3日で、前月と比べ、2.8日の増加、前年同月では0.1日増加した。稼働1日当たりの輸送量は、263,434トンで、前月と比べ、約2万トン増加したため、前月比108.6%、前年同月と比べ、約1千トン増加したため、前年同月比100.4%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

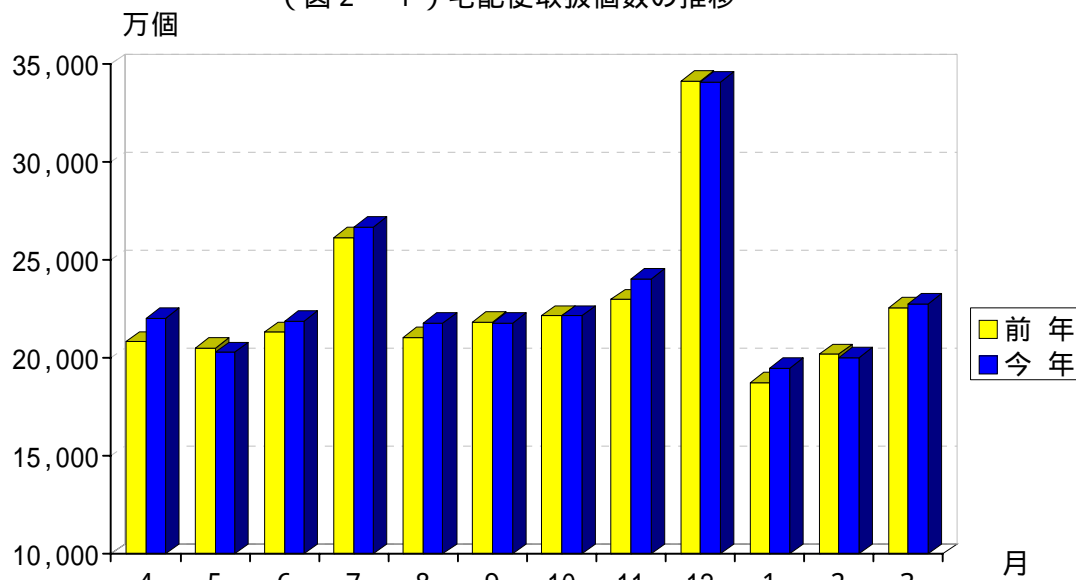


## (2) 宅配便の概況

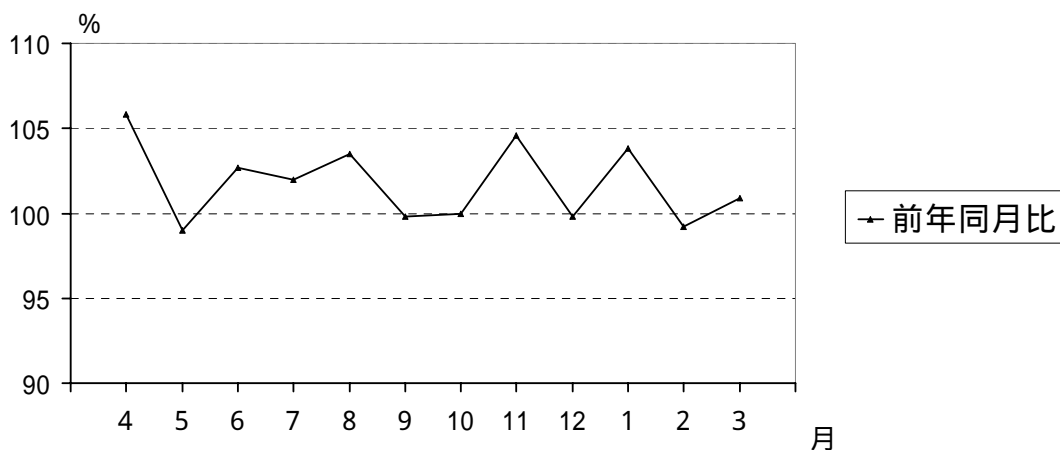
調査対象19社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、227,753千個で、前月と比べ、約2,743万個増加したため、前月比 113.7% (季節調整済み 101.6%)、前年同月と比べると、約 196万個増加したため、前年同月比 100.9%の実績であった。(図2-1、図2-2参照)

(注)平成17年2月より調査対象のうちの1社が宅配便の扱いを中止したため、宅配便調査対象が19社となっている。なお、当該事業者の宅配便におけるシェアが小さく(平成17年1月で全宅配便個数の約0.02%)、影響が小さいことから、前年同月比は20社のデータと比較している。

(図2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



## (3) 品目別及び地域別輸送状況 (表1参照)

前月と比べると、稼働日数が2.8日増加したこと、また、年度末決算期における輸送需要の増加等により全体的に輸送量が増加した。理由としては、工場・生産地からの貨物増、倉庫からの貨物増及び季節的需要増であった。また、食料工業品、日用品においては商社・問屋からの貨物増、その他(百貨店配送品、宅配貨物)においてはデパート・スーパーの貨物増がみられた。地域的には、農水産品以外の品目においては関東、中部、近畿を中心に、農水産品は東北、中国で輸送の増加が見られた。

前年同月と比べると、繊維が中国において工場からの貨物減が見られ、また、機械が関東、愛知、中国で工場からの貨物増による増加が見られたものの、その他の品目では目立った動きは見られなかったことから、全体的な輸送量は1.2%と小幅な増加となった。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因		
	著増	増	変らず	著減					
前月に比べて	農水産品	4	3	11		野菜、果物	東北、中国	4, 8	
	金属製品	3	6	16	1	その他の金属製品	関東、北陸信越、大阪、兵庫、中国	4, 8	
	機械	3	10	13	1	金属部品、電気機械	愛知、関東、大阪、神奈川ほか	4,7,8	
	化学工業品	3	15	10		その他の科学工業品、合成樹脂	関東、愛知、近畿ほか	1,4,7,8	
	繊維工業品	4	6	18		繊維	東京、神奈川、関東ほか	4,7,8	
	食料工業品	4	14	9		加工食品、飲料	関東、東京、神奈川、大阪ほか	4,5,7,8	
	日用品	6	12	10		印刷物、その他の日用品、文具、玩具	関東、東京、中部、大阪、兵庫、近畿ほか	4,5,7,8	
	その他	4	6	17		百貨店配送品、宅配貨物	神奈川、東京、関東、大阪ほか	2,4,8	
前年同月に比べて	農水産品		4	11	2	野菜	東北	4	
					1	その他の農産品	中国	4	
	金属製品		4	18	3	1	建築用金属製品	北陸信越、東京、神奈川、愛知、大阪ほか	4
						1	線材製品、その他の金属製品	中部、中国	4
	機械		6	18	2	1	機械部品、その他の機械	関東、愛知、中国	4
						1	電気機械	北陸信越、大阪	4
	化学工業品		6	18	4		その他の化学工業品	関東、愛知	1, 7
							合成樹脂	神奈川、北陸信越	4
	繊維工業品		2	21	5		繊維	中国	4
	食料工業品		5	18	3	1	加工食品、飲料	関東、福岡	4
日用品		6	15	7		印刷物、身廻品、玩具	東北、関東	4	
						印刷物、衣服	神奈川、東京、近畿、九州	4,7,9	
その他		5	15	6		百貨店配送品、宅配貨物	関東	2,4,5,7	
						百貨店配送品、宅配貨物	神奈川	2, 7	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 823社 / 調査対象事業者数 1,078社）の輸送量は、前年同月比 101.3%、前月比 111.5%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前年同月比	101.3%	101.6%	99.5%	102.7%	97.6%	97.8%	102.5%	103.2%	105.0%	103.1%	94.7%
前月比	111.5%	108.7%	110.9%	111.9%	117.8%	105.8%	113.7%	116.1%	108.6%	115.2%	119.9%

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、廃雪作業の終了により「廃棄物（雪）」の輸送が減少し、また、「砂利・砂・石材」の需要が落ち込んだものの、輸入炭運搬船の入港贈に伴う「石炭」の増加や農作業シーズンに備えた「動植物性飼・肥料」「化学肥料」の需要増等により対前月比108.7%。対前年同月比をみると101.6%とやや上向きを示している。今後の輸送見通しは、雪解け時期を迎え農業関連の需要の増加や建設工事の活発化が予想されるも、事業者においては、減少傾向と見通している。</p>
東北	<p>本月の輸送は、引越シーズンによる「取り合わせ品」が、年度末需要により「食料工業品」「日用品」が、農繁期に向けて「化学肥料」が増加した。また「その他の石油製品」などの増加が目立った。このため、対前月比は110.9%、対前年同月比は99.5%となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向にあるとみられる。</p>
関東	<p>本月の輸送は、「機械」「紙・パルプ」「その他の製造工業品」等が年度末需要による増加が見られたことから、対前月比は111.9%、対前年同月比は102.7%と増加した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向との予想がされている。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、「砂利・砂・石材」「その他の窯業品」等が土木工事の増加により輸送量が増加したことをはじめ、融雪による道路状況改善や年度末繁忙期のため、全体的に前月に比べ輸送トン数が大幅に増加した。このため、対前月比117.8%と増加しているが、対前年同月比は97.6%と減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にあるとみられる。</p>
中部	<p>本月の輸送は、年度末の需要により「金属製品」「機械」「セメント」等が、また工場からの出荷増等により「紙・パルプ」等の輸送が増加したことにより、対前月比105.8%と増加となったが、対前年同月比は、97.8%と減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、期末による販売量増加で「食料工業品（製造食品・飲料）」、新年度に向けての需要増により「日用品（文具・事務用品）」、引越シーズンによる季節的需要で「取り合せ品（引越荷物）」等、年度末繁忙等に伴う増加により対前月比113.7%となった。対前年同月比でも102.5%とわずかに増加した。今後の見通しについては、年度末繁忙期が終わることもあり、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、決算月、年度末のため輸送量が活発となり、特に「鉄鋼」「セメント」「木材」等工事関係品目をはじめ、「化学薬品」「日用品」など多くの工業製品が増加した。また、稼働日が多いこともあり対前月比は116.1%と増加し、対前年同月比も103.2%と、昨年に比べ増加の数字を示した。今後の輸送見通しについては、決算期による一時的な需要の増加と受けとめている事業者が多く次月及び以降とも減少傾向にあると予想される。</p>
四国	<p>今月の輸送は、「紙・パルプ」「穀物」などが減少が見られたものの、引越シーズンにより「取り合せ品」が、建設関係の増加により「セメント」「鉄鋼」「砂利・砂・石材」などが増加したのをはじめ、年度末需要に伴う輸送量の増加があったことから、対前月比108.6%、対前年同月比で105.0%の増加であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にあると思われる。</p>
九州	<p>本月の輸送は、引越シーズンにより「取り合せ品（引越荷物）」が、新生活のための身の回り品としての「日用品」が、建設工事件数の増加により「砂利・砂・石材」「機械」「セメント」等の工事に関連する品目の輸送が増加したことをはじめ、「木材」「野菜・果物」「食料工業品」等、多くの品目で季節的な要因により輸送が増加したことから、対前月比115.2%、対前年同月比103.1%とともに増加した。今後の輸送の見通しとしては、次月及び以降とも減少傾向にあると思われる。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、年度末に係る「取り合せ品（引越貨物）」、県外向け彼岸用として「その他の農産品（切花）」のほか、「穀物」、「水産品（冷凍マグロ）」の輸送増が見られたものの、遊技場関連「機械」の県外輸送が減少している。全体では、対前月比119.9%、対前年同月比では94.7%となった。今後の輸送見通しについては、次月以降増加傾向が予想される。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	0	2	0	2	0	0	0	0	2	1	7
	減	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
2. 野菜・果物	増	1	0	1	1	0	0	0	2	5	0	10
	減	2	0	1	0	0	0	0	2	3	0	8
3. その他の農産品	増	3	2	0	0	0	0	0	0	3	2	10
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. 畜産品	増	1	0	0	0	0	0	1	0	3	0	5
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5. 水産品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3
	減	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0	5
6. 木材	増	3	2	1	2	0	0	5	0	6	0	19
	減	3	0	0	1	0	0	0	0	1	0	5
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9. 金属鉱物	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10. 砂利・砂・石材	増	2	3	0	3	0	0	0	1	4	0	13
	減	11	3	0	0	0	0	1	0	0	0	15
11. 工業用非金属鉱物	増	1	2	1	0	0	0	2	0	2	0	8
	減	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3
12. 鉄鋼	増	1	1	1	2	0	1	3	1	4	0	14
	減	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
13. 非鉄金属	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14. 金属製品	増	2	1	1	1	3	1	1	0	1	0	11
	減	0	0	2	0	1	0	0	0	1	0	4
15. 機械	増	0	2	5	2	1	2	1	3	5	0	21
	減	0	1	1	2	1	0	0	0	0	1	6
16. セメント	増	1	3	0	1	2	1	5	2	5	0	20
	減	3	0	1	1	0	0	1	0	1	0	7
17. その他の窯業品	増	2	0	1	4	1	1	2	1	2	0	14
	減	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	6

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増	0	0	0	1	0	0	1	1	0
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
19. その他の石油製品	増	1	3	2	4	0	0	2	0	1	0	13
	減	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3
20. コークス・ その他の石炭製品	増	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 化学薬品	増	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3
	減	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
22. 化学肥料	増	3	4	1	2	0	2	1	0	2	0	15
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23. その他の化学工業品	増	0	0	0	1	1	2	0	1	0	0	5
	減	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
24. 紙・パルプ	増	2	1	4	1	1	2	2	2	2	1	18
	減	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	3
25. 繊維工業品	増	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
26. 食料工業品	増	2	8	2	0	0	5	2	3	7	0	29
	減	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	4
27. 日用品	増	3	7	0	0	0	4	3	1	9	0	27
	減	4	0	0	0	1	0	0	1	0	0	6
28. その他の製造工業品	増	0	1	3	0	1	1	5	1	2	0	14
	減	0	0	0	1	0	3	0	0	1	0	5
29. 金属くず	増	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30. その他のくずもの	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動植物性飼・肥料	増	3	1	2	0	0	0	0	2	2	0	10
	減	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	4
32. 廃棄物	増	4	0	1	0	0	0	1	1	2	0	9
	減	7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	9
33. 輸送用容器	増	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
34. 取り合せ品	増	2	6	1	0	0	3	2	5	7	3	29
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
35. その他	増	0	0	0	2	1	2	2	0	1	0	8
	減	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1